



笹賀の世帯数・人口
世帯数 4,788 世帯
人口 10,753 人
男 5,417 人
女 5,336 人
(令和 7. 3. 1 現在)

町内公民館対抗卓球大会開催

1 月 26 日、ラージボール卓球大会が、8 町会の町内公民館から選手、応援団合せて 1000 人余りが参加し、開催されました。

ラージボール卓球で交流

町内公民館対抗の 4 シングル スーパースの団体戦で、ベンチから声援を送る姿や、慣れない競技に緊張の面持ちで熱中する姿が印象的でした。



本年度も、全公民館の参加とはなりませんでしたが、戸数の少ない地区でも、役員や家族を総動員して盛り上がりを見せました。



また大人にまじり、小中学生の参加がありました。

菅野小学校 5 年生鈴木花瑠さんは「暇だから来ましたあ 1 点でも多くとりたいです！」

1 年生鈴木睦琉さんは「卓球を授業でやり楽しかったのて来しました。初心者だけど頑張



ります」

3 年生の渡邊葉さんは「1 点はとりたいけど... 1 点も取れないのはやだなあ... でも楽しくやりたいです。受験の息抜きになればいいです」と語っていました。

試合結果は、ベテランの西川和子選手に大川勝彦選手、大川ゆみ子選手や伊藤伸次選手、浦嘉宏選手と実力者を揃えた空港東公民館が念願の優勝を飾りました。

準優勝は、決勝では惜敗しましたが、実力者の赤羽淳子選手に島千佐枝選手、米山聡選手、清水選手が活躍した上二子公民館で、大会は成功裏に幕を閉じました。

ラージボールは、直径が硬式より 4 ミリ大きい 44 ミリで、かつて日本式ともいわれた軟式ボールの材質を利用した弾みの少ない軽いボールです。参加者は「力の差が付きにくくプレーしやすい」と話していました。

音楽の風景

第 4 回

～フォークソング～

2 月 5 日 (水) 午後 2 時より、神戸新田のジャズ雅鳴きたやにて、第 4 回音楽の風景が行われました。

今までジャズを、そして前回は公民館ピアノでクラシックなどを聴いてきました。今回は「フォークソングはどう？」という

声があり、さらに小松さん (空港東) が、師匠であるわさび 21 の中村さんと生演奏をしてくれる、という話に膨らんでの開催となりました。

まず第一部はフォークソングについての大槻公民館長の解説と共に、ヒット曲の作者のセルフカバーやスタンダードナンバーを。そしてフォークソングといえ反戦歌、戦後 80 年を鑑みて代表的な曲を聴きました。続けてもう 1 曲の反戦歌は、中村さんがその歌は歌わせてほしい、というこで生演奏になりました。

第二部は小松さんと中村さんのライブ。小松さんの作詞に中村さんが曲をつけたものなどを歌ってくれました。小松さんは 60 歳を過ぎてからギターを習い始めたそうですが、その昔フォーク青年だったのと思えない演奏振りでした。



第三部は参加者の皆さんが思い出の曲などを持ち寄って。今回フォークソングを提案してくれた杉山さん (下二子)、そして藤松さん (神戸) と中澤さん (神戸) からのおすすめ曲を、それぞれにまつわる思い出話などと共に聴きました。

どの曲も、共感できる世代が集まっていますので、心にグッとくる曲ばかりでした。

会場のきたやさん、オーディオシステムは JBL の 38 センチモニタースピーカーと、マッキントッシュのインテグレートッドアンプです。

ライブ盤の曲をかけたときは、まるでステージの上で目の前にして聞いているようでした。JBL とマッキントッシュの組み合わせはジャズにとっても相性がいいのですが、そのポテンシャルは広い範囲のジャンルに対応できると実感しました。

権修
人研満蒙開拓平和記念館
馬籠宿藤村記念館を訪ねて

1月9日、小雪が降りし
きる中、総勢24人が参加し、
人権啓発推進協議会研修
会が笹賀公民館との共催で
開催されました。

最初に、阿智村にある満
蒙開拓平和記念館を訪ね
ました。国策(国の都合)
により開拓団として満州に
渡り、敗戦で帰って来れなかつ
た人、やつとの思いで帰って来
れた人、戦中戦後を満州(現
中国)で生きた人々の苦難、
暮らし(生きた証)を垣間
見ることができました。

お昼は記念館の近くの食
堂で地産食材を使った食事
をおいしくいただきました。

馬籠宿の藤村記念館で
は、作家・詩人の先駆けと
なった島崎藤村の功徳を讃
え、後世に伝える資料を見
ることができました。

藤村の代表作『破戒』の
主人公瀬川丑松は、明治
後期、小諸の被差別部落に
生まれ、「生い立ちと身分
を隠して生きよ」と父から
戒めを受けて育ち、小学校
教員となりました。学校で

被差別部落出身であること
の噂が流れ、同僚の猜疑や
ほかの事情により丑松は追
い詰められ、信州から東京
に旅立つたとする序章から
物語が始まります。

島崎藤村は、差別をテー
マにした『破戒』のほかに『夜
明け前』などの小説、そし
て、『千曲川旅情のうた』『椰
子の実』など、今も歌い継
がれている楽曲の作詞をし
ていますが、今回、記念館
を訪れ、改めて島崎藤村の
人となりを知ることが
できました。

人権問題と言え
ば、かつては封建時
代に作られた被差別
身分の問題、同和問
題でしたが、昨今こ
の言葉が薄れてきた
ように感じます。

いっぽう、ハラスメ
ントという表現でセ
クハラ、パワハラ、カス
ハラをよく耳にしま
す。その根底にある
のは差別(人の人権
を蹂躪するもの)で

しょう。

そして、命を奪われる戦
争こそ最大の人権問題で
す。犠牲になるのは、いつも
弱い女性や子ども達です。

世界は戦争が絶えません。

争いごとが絶えないのは、
人がこの世に生を受けてい
る以上、より高みを望む人
間には仕方がないことなの
でしょうか。

仕方がない
では済まされ
ないはずです。



▲藤村記念館

ワインの魅力を知ろう！



3月8日、今町会にあるガク
ファーム&ワイナリーの古林利
明さんを迎え、ワインセミナー
が開かれました。

古林さんは、塩尻ワイン大
学一期生です。2015年ぶど
う栽培を始め、2020年には
酒類製造免許を取得、自宅ガ
レージを改装したワイナリーで
『ガレージから世界へ』という思
いで、夫婦二人三脚でワインを
作っています。農薬などの使用
をできるだけ減らし、様々な植
物・生物による畑環境の多様
性を大切にしているそうです。

まず世界のワインについて、
それからワインの楽しみ方を学
びました。香りを視覚的に表
現したアロマチャートがあり、
その香りを感じながらいただく
というのは興味深いお話でした。

さて、お待ちかねの試飲タ
イムです。深みの中にフルー
ティーな味わいの白、山ぶどう
の深い深い味わい、奥行きが深
くエレガントな赤、鮮烈な炭酸
の向こうから現れるシードルの
旨み。(ヤマブドウは日本ワイン
コンクール2024銅賞受賞)

参加者の皆さんから、葡萄
作り・ワイン造りをしてみたい、
また、土作りについてなどいろ

ろな質問や意見が出て、ぜひ
次のセミナーを！と声が上が
りました。

山好きのご夫婦なので、ワイ
ンのラベルには山が、名前には
登山にちなむ言葉が入っていま
す。もちろんガクファームのガク
は山岳の岳。北アルプスの山々
のように雄大なワインの山が今
地区に広がります。

